



キュービーネットホールディングス株式会社

2022年6月期3Q累計 決算説明資料

2022年5月13日

(目次)

■ 2022年6月期 3Q累計実績

【連結】 サマリー	P.2~3
【連結】 新店・移転・閉店の実績	P.4
【国内】 来店客数の回復率実績と回復率想定	P.5~7
【国内】 売上収益の推移	P.8
【海外】 海外の状況	P.9~10
【連結】 PLの増減内訳（前期比）	P.11、 P.13~15
【連結】 PLの増減内訳（計画比）	P.16
【連結】 売上収益の推移、営業利益の推移	P.12、 P.17
【国内】 退職率の推移	P.18
【国内】 人員状況（採用数・従業員数）	P.19

■ 重点施策について

P.20~25

■ Appendix

P.26~35

PL、BS、キャッシュ・フロー計算書 P.32~34

今期の出店計画 P.35

エグゼクティブサマリー

(3Q累計の実績)

- 売上収益は前年同期比107.5%の14,992百万円。3Qは1~2月が平年よりも気温が低下したことに加え、第6波の影響があったものの、3月は気温の上昇等に伴い回復
- 営業利益は前年同期比320.4%の901百万円。売上の回復に加え、店舗スタイリストの適正化（前期後半と今期1Qの採用抑制）とコスト削減等により増益
- 業績の進捗状況から、1株当たり配当額は「未定」→「9円00銭」予想へ修正
- 香港政府からの理美容業全体への休業命令により、2/10~3/9全店休業の影響あり
→助成金は4Q計上予定



(4Qの取り組み)

- 国内のシニア価格終了後、4月からシニア層向けの期間限定キャンペーンを実施中（65歳以上の方は、1ヶ月以内の再来店により100円割引で税込1,100円）
- DX推進として、LINEミニアプリの開発完了、QB HOUSEのカットカルテを開発中
- 2022年7月の新店からの導入に向けて、キャッシュレス対応の新券売機を開発
- 来期の出店に備えて、スタイリストの採用を強化

グループ連結業績

- 2022年6月期3Q累計は、前期比で増収増益
- 通期業績予想は、新型コロナの感染状況が収束していないことから、当初予想を据え置き
- 1株当たり配当額の予想は、「未定」→「9円00銭」へ修正

グループ連結業績（サマリー）

単位：百万円	2022/6期3Q累計		2022/6期通期		
	実績	前期比	予想	前期比	進捗率
売上収益	14,992	107.5%	20,840	110.1%	71.9%
営業利益	901	320.4%	1,100	237.3%	82.0%
税引前利益	788	539.0%	920	321.2%	85.7%
当期利益	519	322.9%	640	262.4%	81.2%
基本的1株当たり 当期利益	40円42銭		49円09銭		
1株当たり配当額	—		9円00銭		

【連結】 新店・移転・閉店の実績

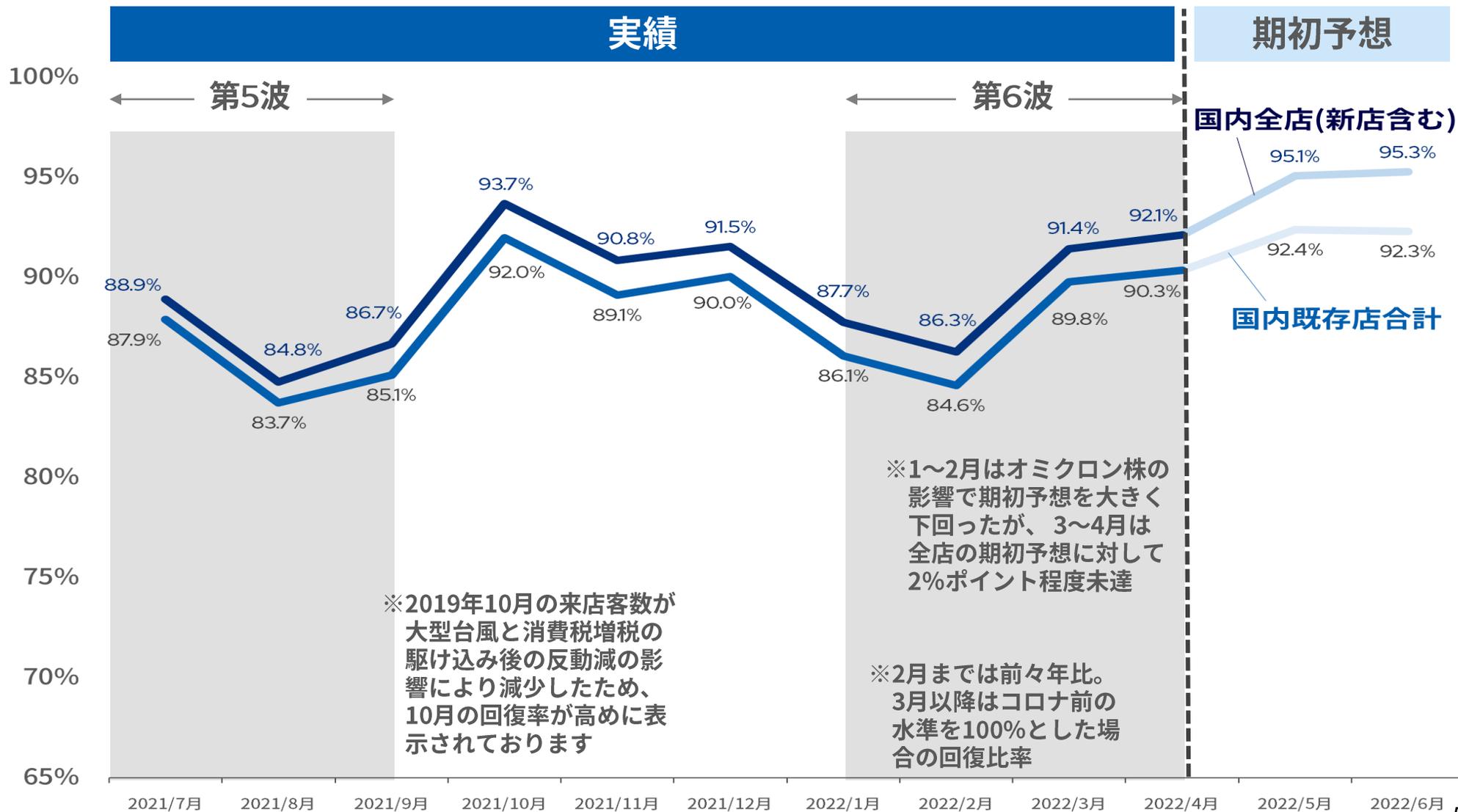
- 新店は一部来期へ繰り越し予定（通期計画比：国内△6店、海外△8店）
- 国内および香港2店舗の閉店は、主に駅やデベロッパーの改修工事等によるもの
- 海外の閉店8店舗のうち、6店舗はコロナ影響によるもの

単位：店舗	業態	2021/6期末	新店	移転	閉店（※1）	増減	2022/3月末
日本	QB HOUSE	565	13	4	△7	10	575
	QB PREMIUM	1	2	0	0	2	3
	FaSS	13	0	0	△1	△1	12
国内小計		579	15	4	△8	11	590
シンガポール	QB HOUSE	23	0	0	△1	△1	22
	QB HOUSE Premium	9	0	0	0	0	9
	QB HOUSE Kids	2	0	0	△1	△1	1
香港	QB HOUSE	66	1	0	△3	△2	64
台湾	QB HOUSE	31	1	0	△3	△2	29
アメリカ	QB HOUSE	4	1	0	0	1	5
海外小計		135	3	0	△8	△5	130
連結グループ合計		714	18	4	△16	6	720

（※1）閉店数は移転に伴う閉店を含む

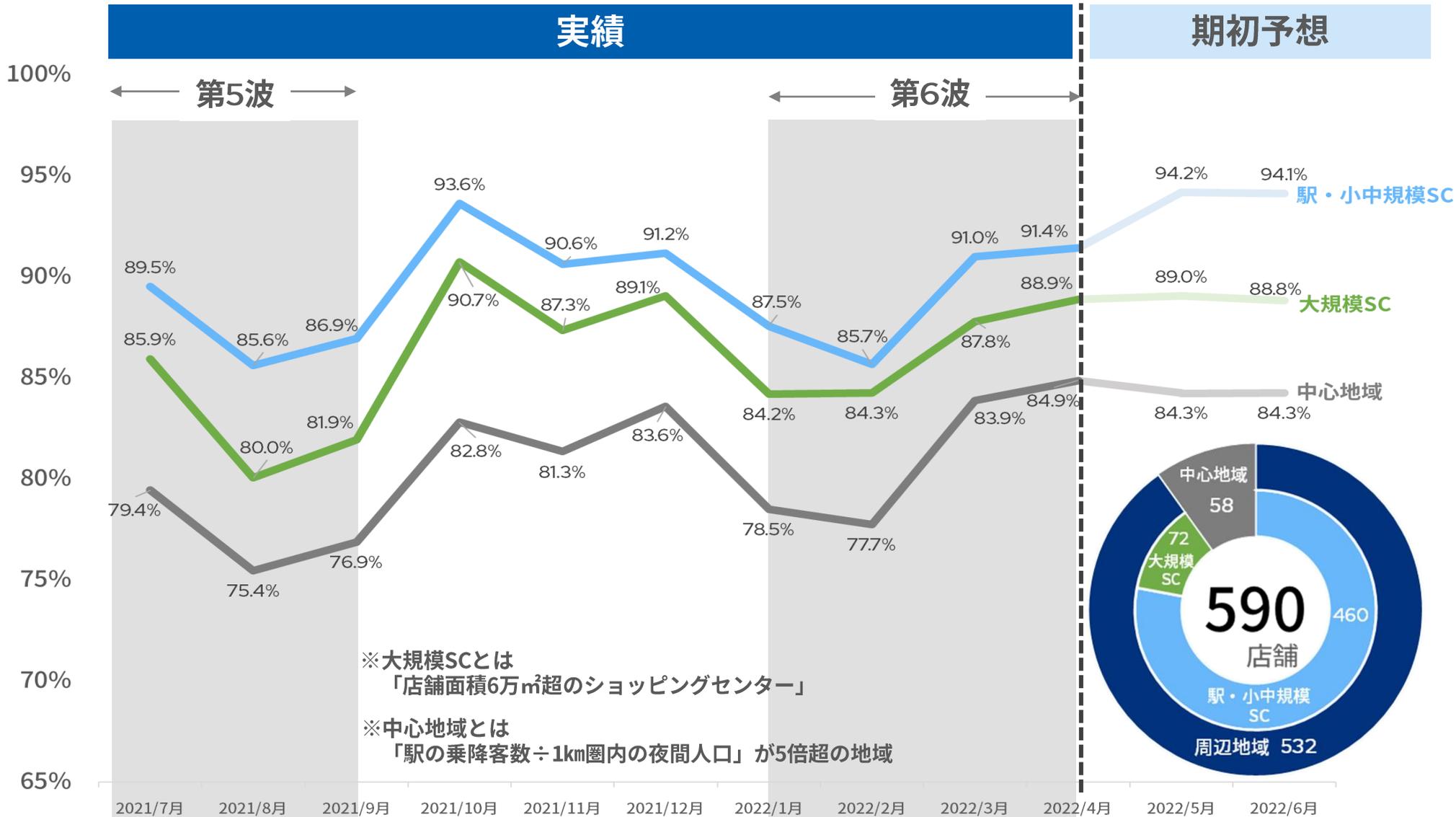
【国内】来店客数の回復率実績と回復率想定

- 1~2月は、平年よりも気温が低下したことに加え、第6波の影響あり
- 3~4月は、気温の上昇やまん延防止等重点措置の解除等に伴い回復



【国内】来店客数（立地別）の回復率実績と回復率想定

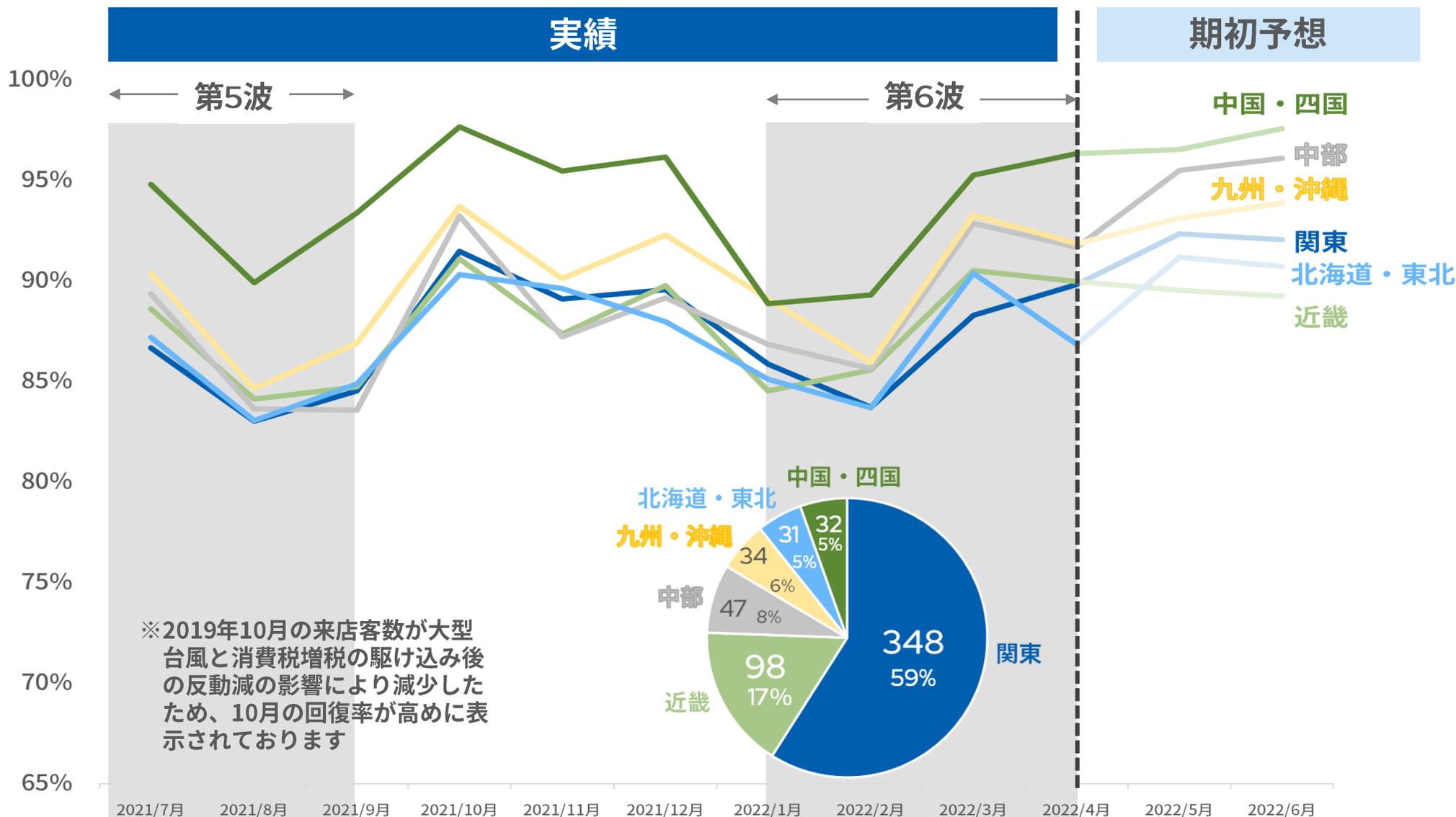
- 立地別では、駅や中心地域において、引き続きテレワーク定着等の影響を受け、回復が遅れている



※2月までは前々年比。3月以降はコロナ前の水準を100%とした場合の比率

【国内】来店客数（地域別）の回復率実績と回復率想定

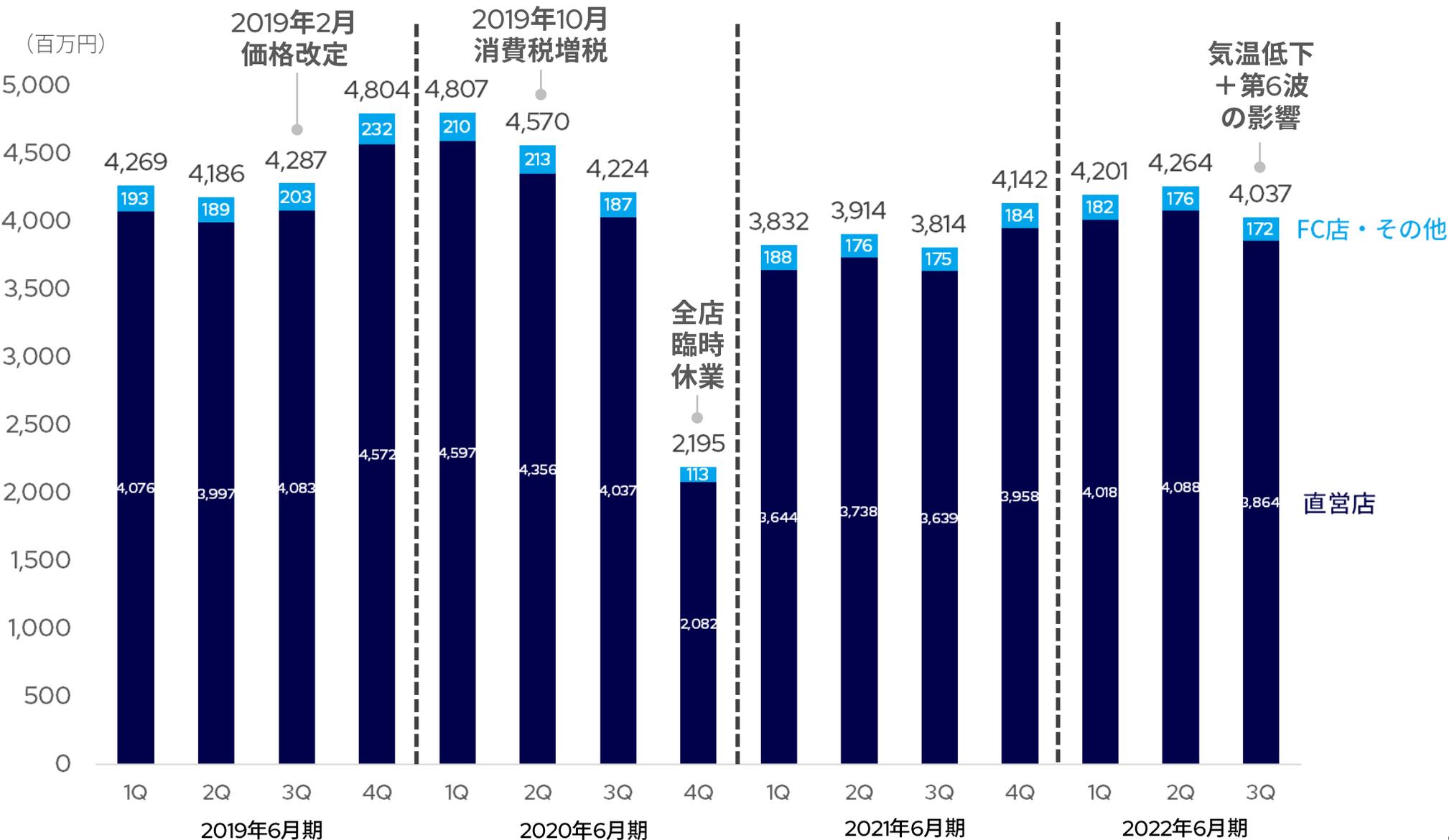
地域別では、感染者の拡大局面において、特に都市部（近畿・関東等）の回復が鈍化



※2月までは前々年比。3月以降はコロナ前の水準を100%とした場合の比率

【国内】売上収益の推移

3Qの国内の売上収益は、気温の低下かつ第6波の影響あり（通常1Q・4Qが繁忙期）



【海外】 事業等の状況

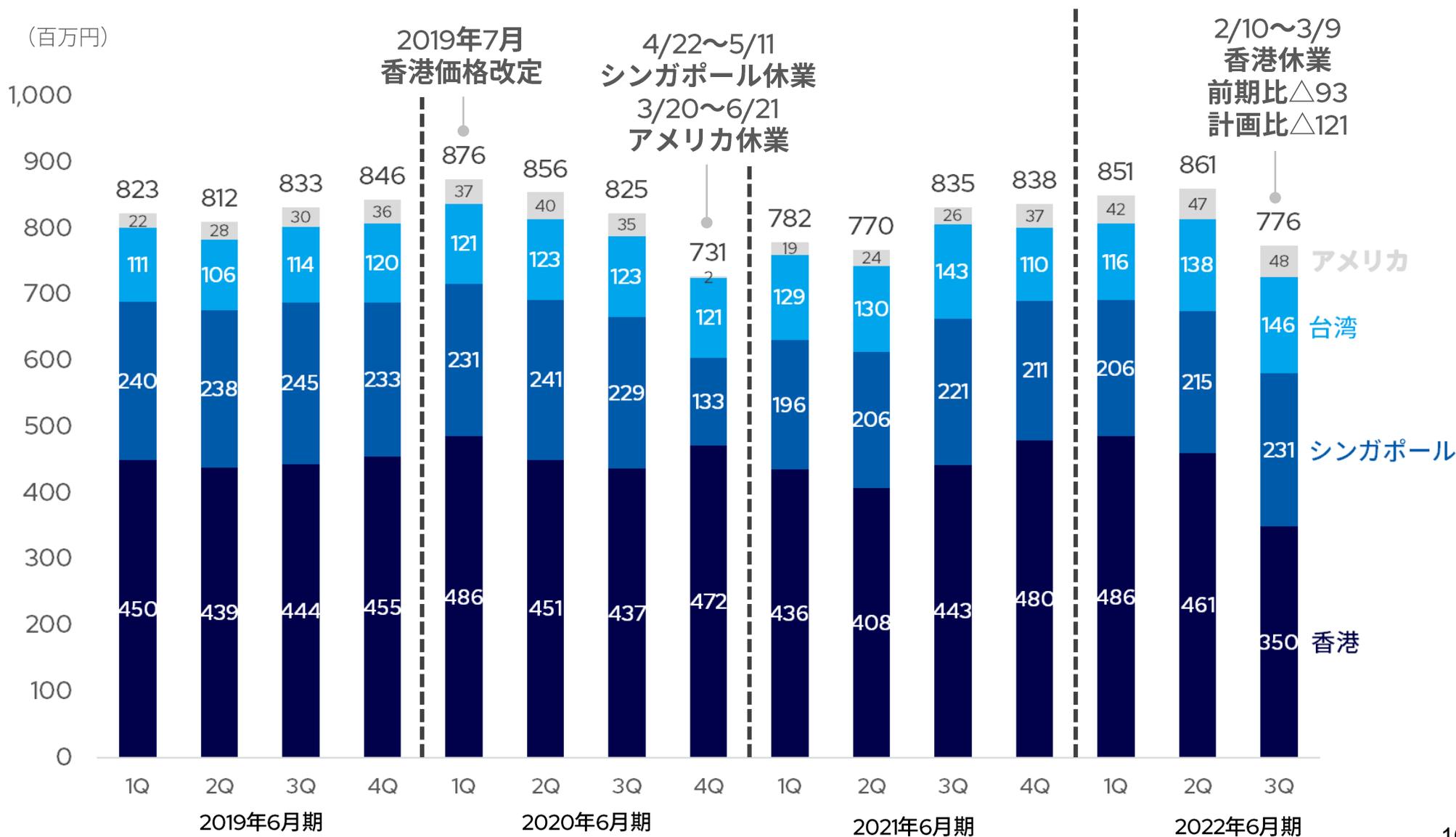
	売上 3Qのみ コロナ前比	客数 3Qのみ コロナ前比	状況
香港	72.8% ※円安影響含む	67.1%	政府からの理美容業全体への休業命令により、2/10～3/9全店休業 →助成金を4Qに計上予定。休業期間中のスタイリストの給与は保証 3/10再開後、入店には2回接種済みのワクチンパスポートが必要となり、 一部影響あり〔ワクチンの2回目接種率85.5%（5/10時点）〕 4月は感染者数が減少傾向となり、4月売上は計画比82%と回復途上
シンガ ポール	97.0% ※円安影響含む	86.4%	1月～ワクチン未接種者は原則職場への出社制限 3/15～出社制限は定員の50%に緩和、3/29～定員の75%に緩和 4/26～出社制限は撤廃 3～4月は感染者数が減少傾向となり、回復傾向
台湾	111.4% ※円安影響含む	96.4%	1/10～屋外においてもマスク着用義務化、売場の人数制限など 3/1～防疫措置の緩和（屋外での運動時にマスク不要など） 4～5月の感染者数が増加し（過去最高）、来店客数に影響あり
アメリカ	110.7% ※円安影響含む ※値上げ含む	82.4%	価格改定（2020年6月20ドル→23ドル、11月25ドル）の影響あり 感染者数が1月下旬より減少し、回復傾向 3/7～NY市は屋内マスク着用義務撤廃、ワクチン証明提示の必要無し 来店客数の回復と値上げ影響により、4月の売上は円安影響を除いても （ドルベースで）過去最高を記録

※売上は円単位で比較しているため、為替レート（円安）の影響を含んでおります

※コロナ前の水準（＝コロナ前の予算×進捗率）を100%としております

【海外】売上収益の推移

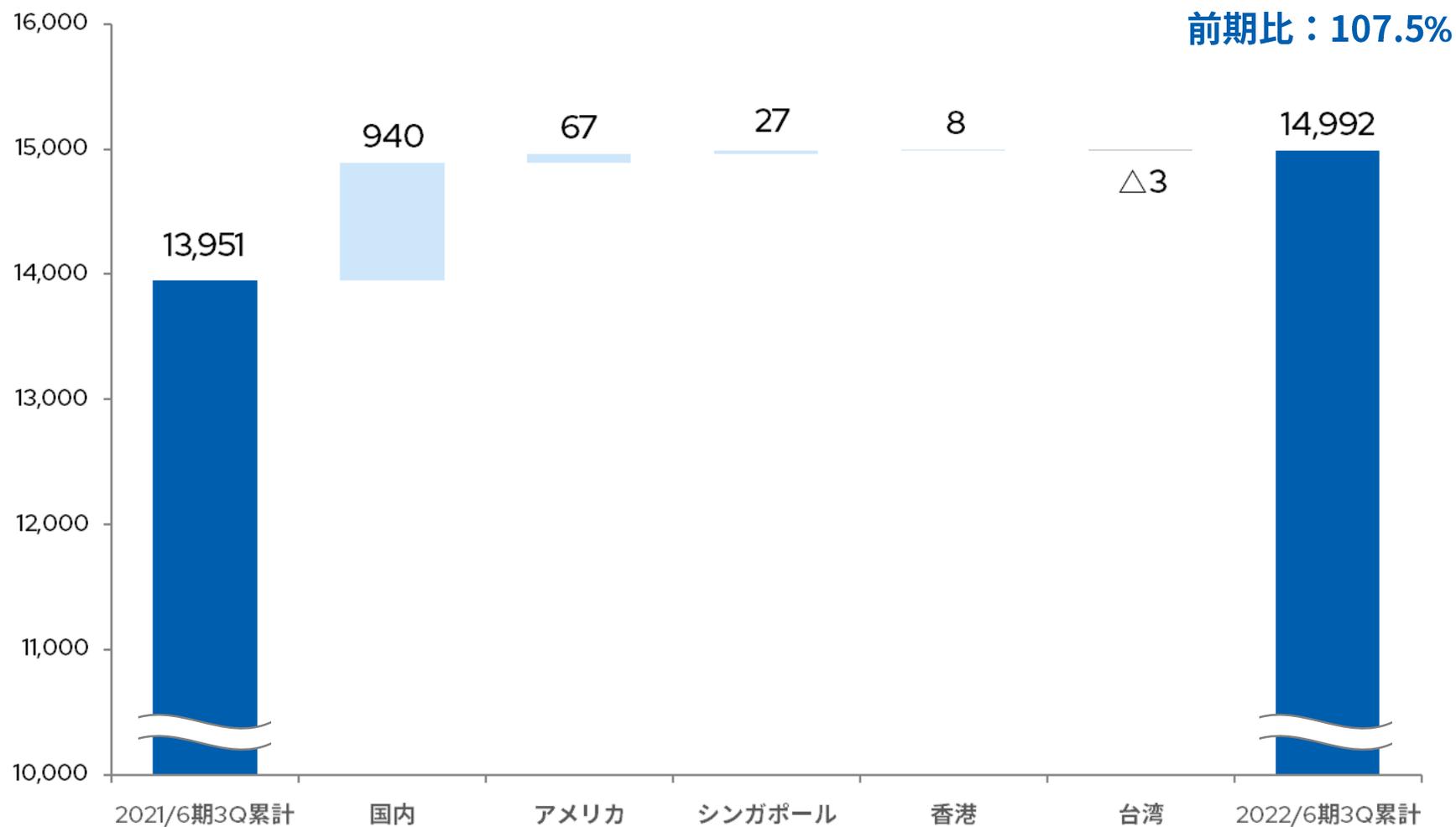
香港政府からの理美容業全体への休業命令により、2/10~3/9全店休業の影響あり



【連結】売上収益の増減内訳（前期比）

- 売上収益は、主に前期比で国内とアメリカの回復が継続し、前期比1,041百万円の増加

単位：百万円

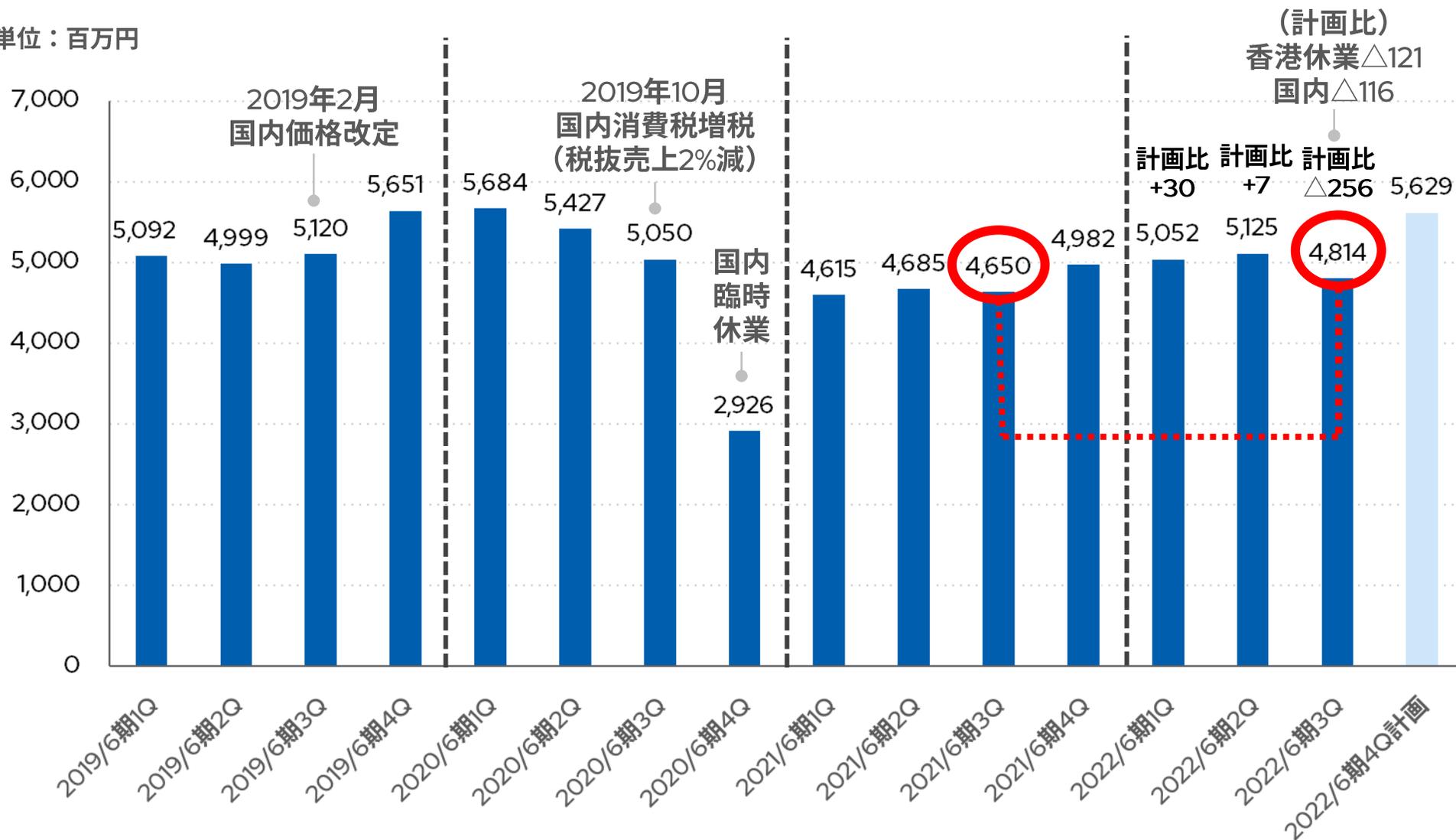


【連結】売上収益の推移

実績

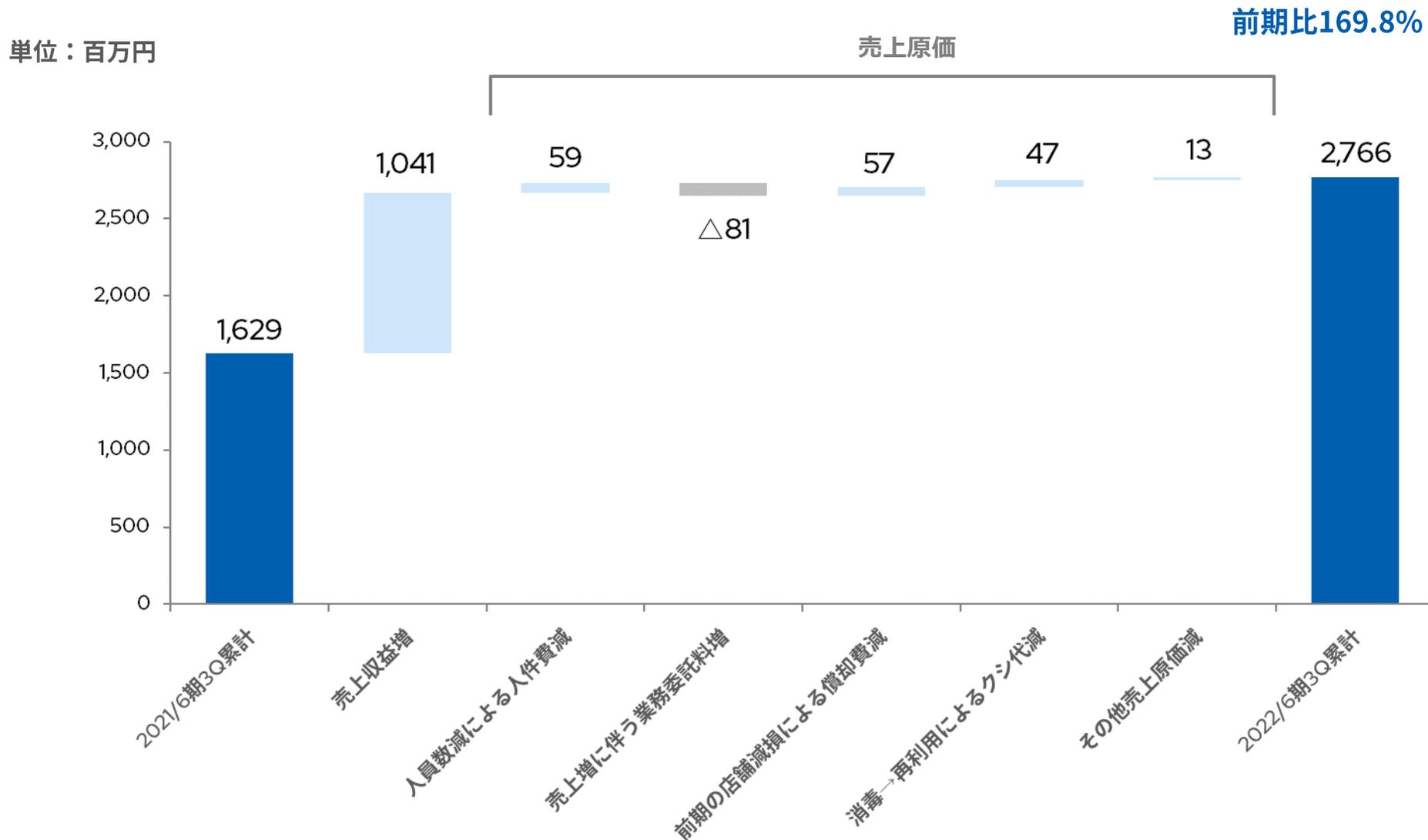
期初
予想

単位：百万円



【連結】売上総利益の増減内訳（前期比）

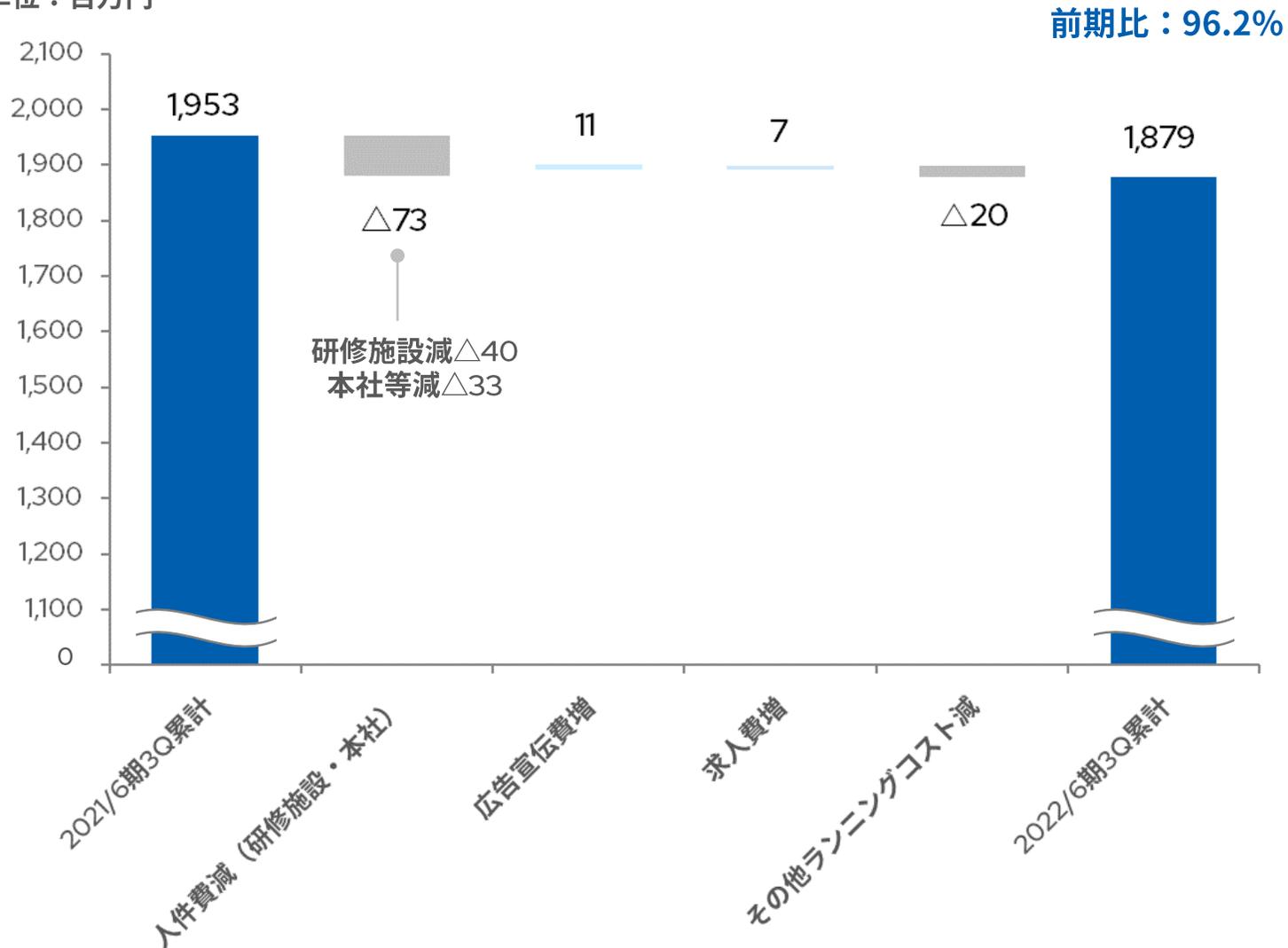
- 粗利は、売上の回復に加え、前期の店舗減損の影響やリユースによるクシ代減等があり、1,137百万円増加



【連結】 販管費の増減内訳（前期比）

- 販管費は、研修施設（研修生の採用減）および本社（退職補充の抑制）の人員費減等により、前期比74百万円減

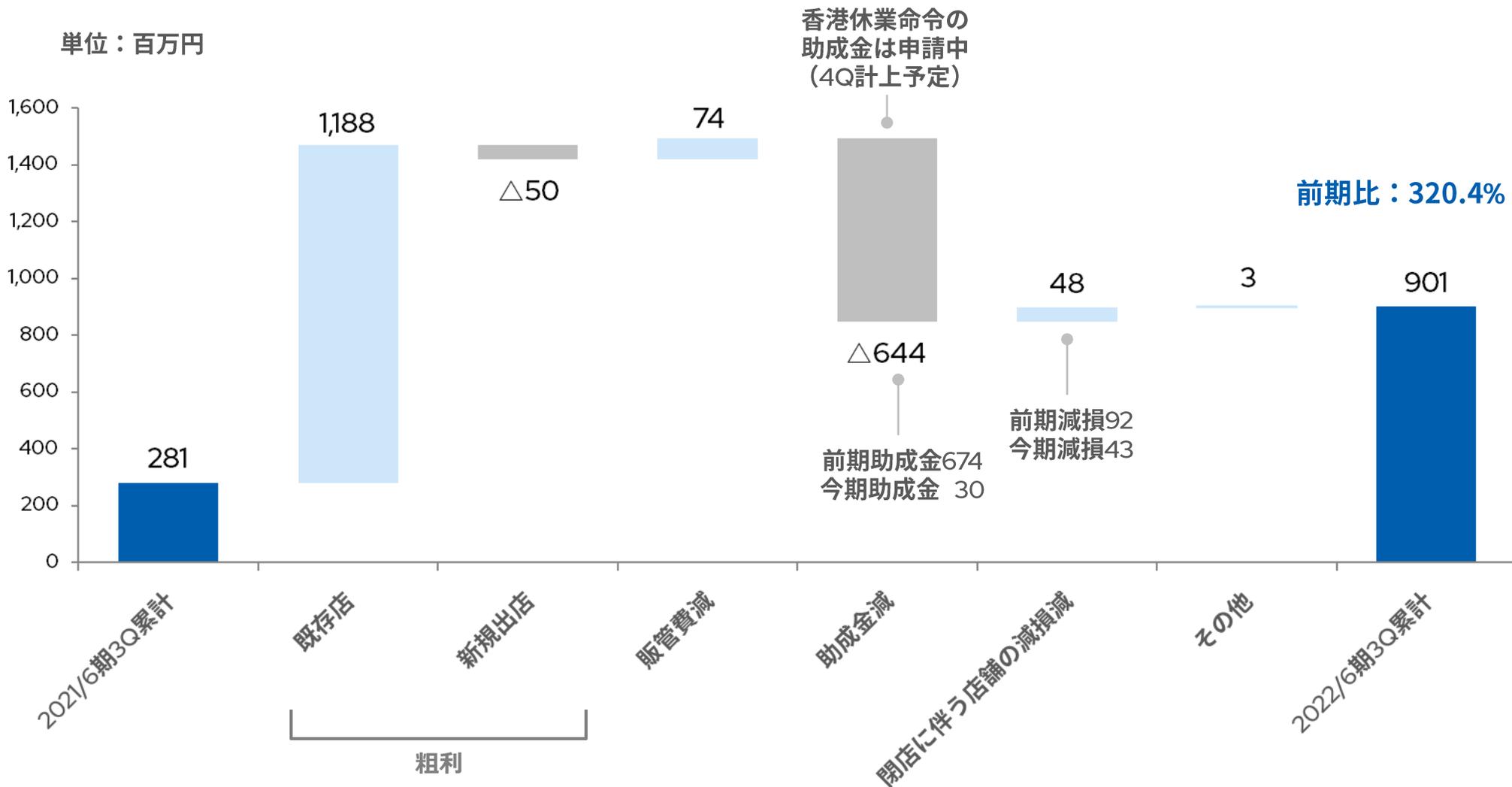
単位：百万円



【連結】 営業利益の増減内訳（前期比）

- 営業利益は、助成金が減少したものの、粗利の回復と販管費、閉店に伴う店舗減損の減少により、前期比620百万円増益

単位：百万円



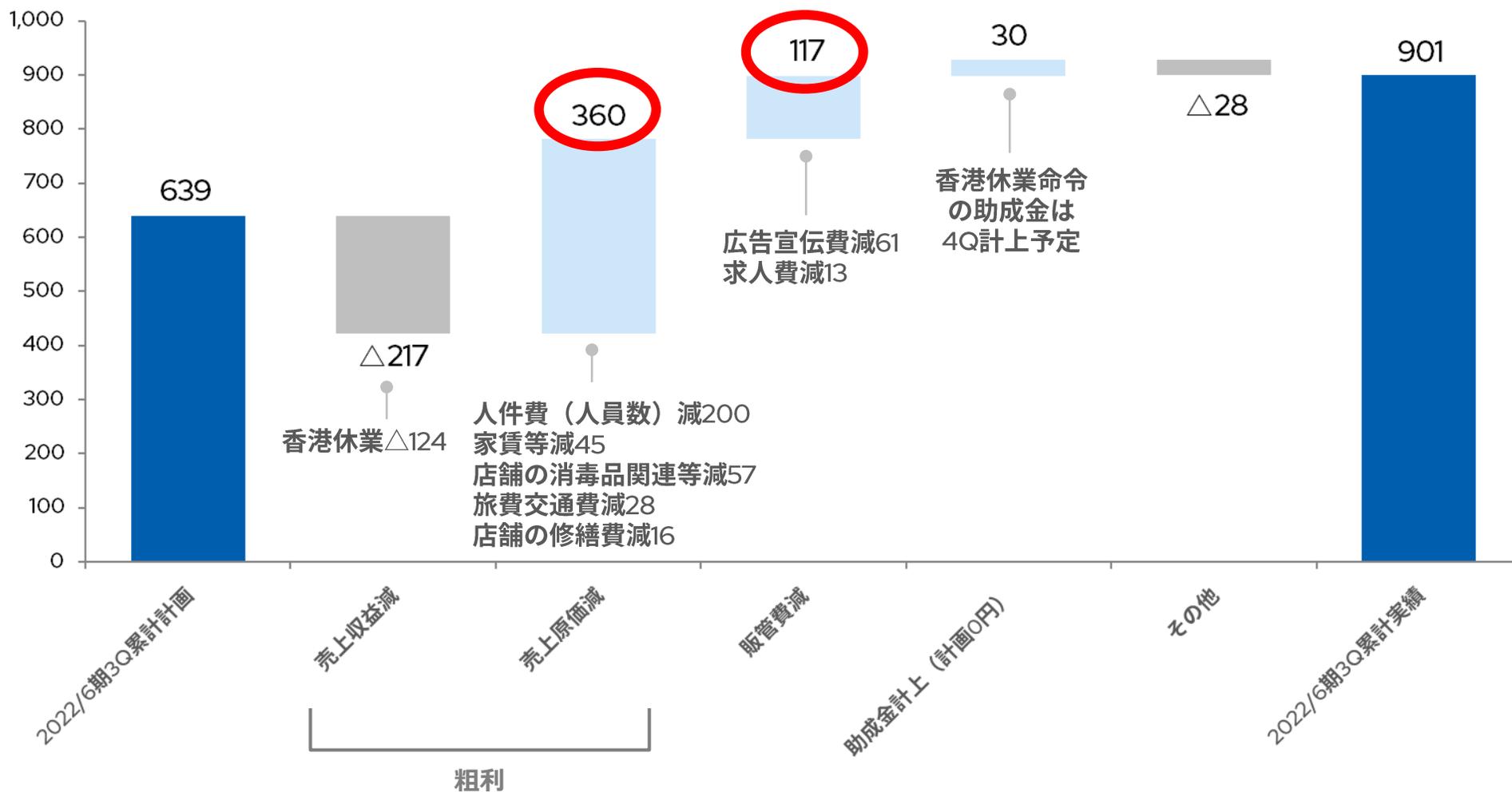
※新規出店は出店後13ヶ月未満の店舗

【連結】 営業利益の増減内訳（計画比）

- 営業利益は、香港の休業等により売上収益が計画を未達したものの、主に人件費や家賃等の売上原価・販管費の減少により、計画比262百万円の増益

単位：百万円

計画比：141.0%

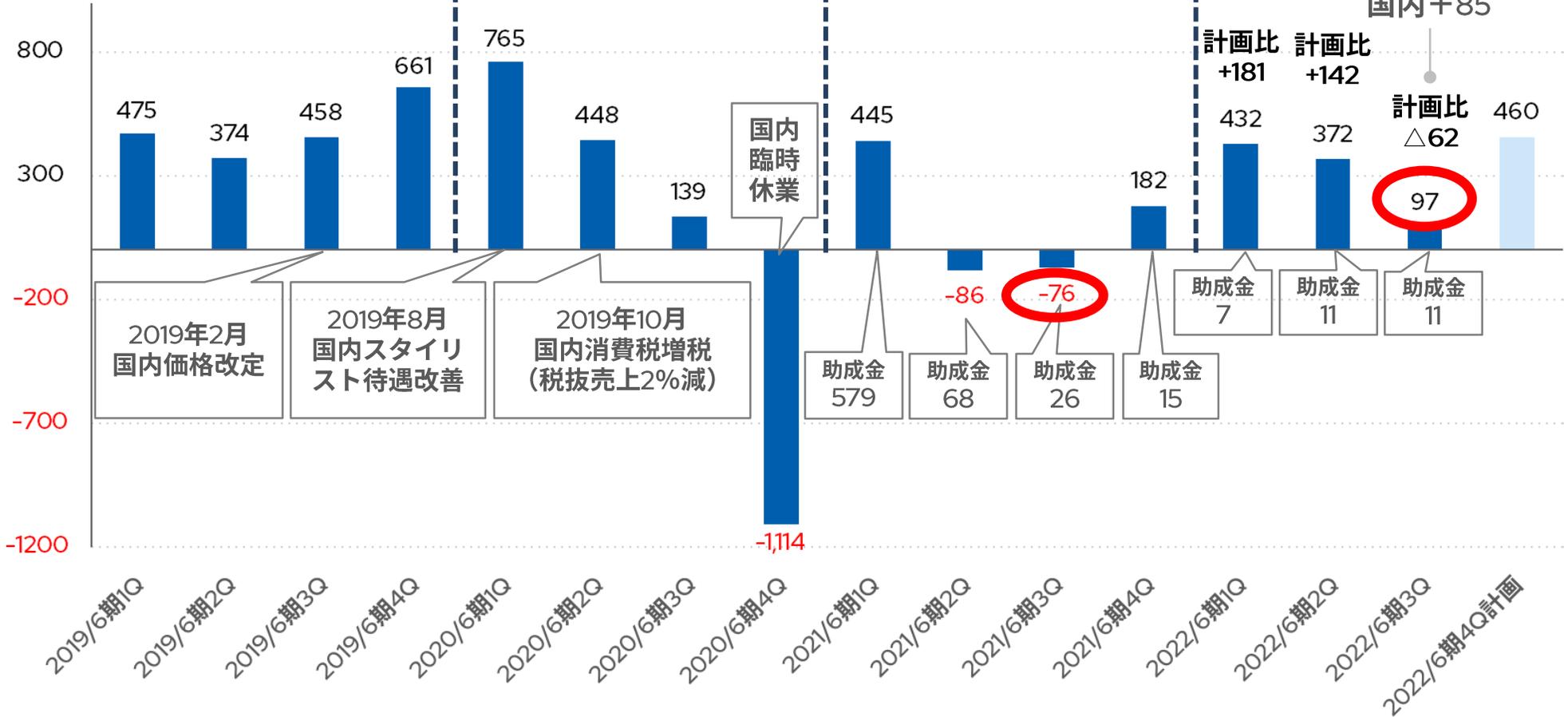


【連結】 営業利益の推移

実績

期初
予想

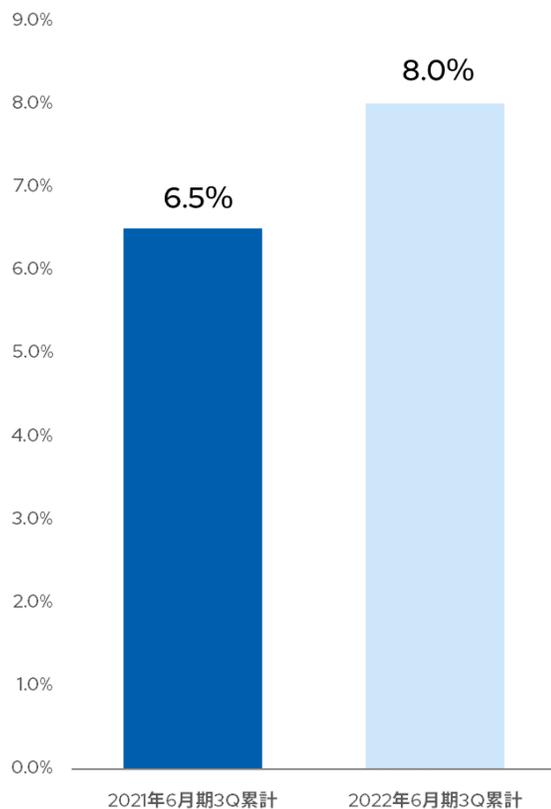
単位：百万円



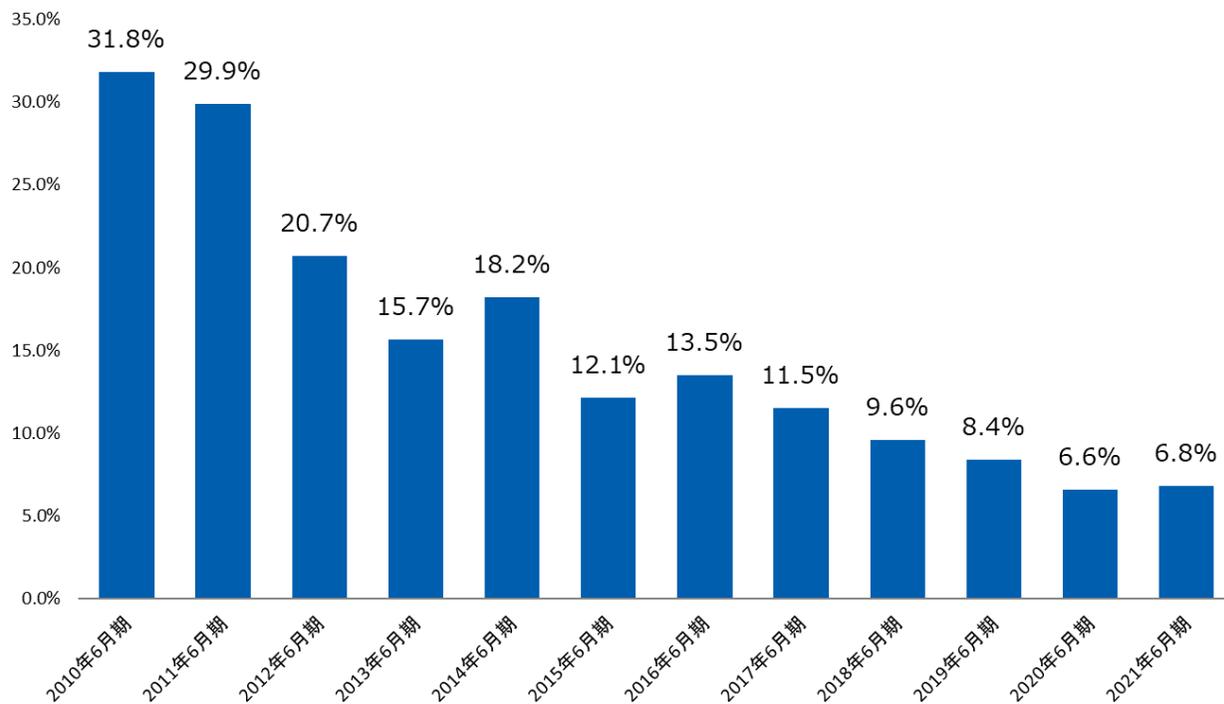
【国内】スタイリスト（正社員）の退職率の推移

- 国内正社員の退職率は、年率換算で8.0%（前期比1.5%ポイント増）
- 正社員の退職者数が前期比16人増および分母となる正社員数の減少によるもの

国内正社員の3Q累計の退職率（年率換算）



【参考】国内正社員の退職率の推移（年間実績）

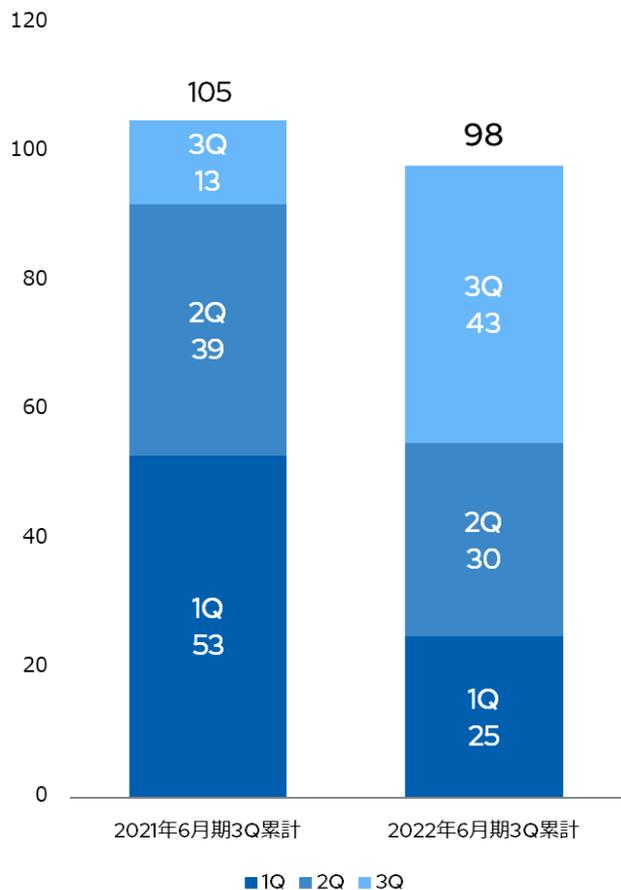


※本社は除く
※研修施設（ロジスカットプロフェッショナルスタイリストスクール）含む

【国内】スタイリストの人員状況

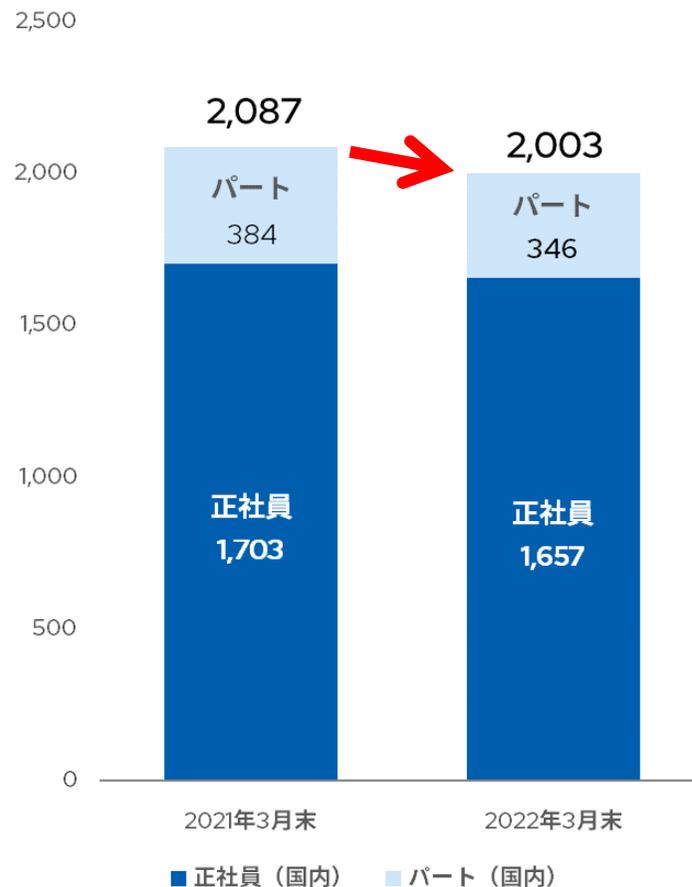
- 国内正社員の採用数は、採用強化（前期3Qは採用抑制）により98人（前期比△7人）
- 従業員数は、1年間で△84人（正社員△46人、パート△38人）

単位：人 国内正社員の採用数



※業務委託先店舗からの正社員の移籍を除く。
 本社は除く。研修施設（ロジスカットプロフェッショナルスタイリストスクール）含む

単位：人 2022年3月末の国内従業員数



※業務委託先店舗からの移籍を含む。
 本社は除く。研修施設（ロジスカットプロフェッショナルスタイリストスクール）含む

今後の事業KPIについて

- 既存店の客数減少を他の項目で補い、**コロナ前の利益水準以上を目指す**



重点施策① LINEミニアプリによる会員化および電子カットカルテの開発



- LINEミニアプリによる会員化
(LINEミニアプリの開発は完了)
- QB HOUSEの電子カットカルテを開発中
(FaSS、QB PREMIUMの電子カットカルテは既に稼働中)



- 顧客接点を増やし、デジタル販促の強化
- 電子カットカルテにより業務の効率化
 - ・お客様のオーダーの煩わしさ軽減
 - ・カウンセリング時間の短縮

重点施策② 新券売機の導入開始（予定）



決済端末

➤ 2022年7月の新店より、
新券売機を導入予定



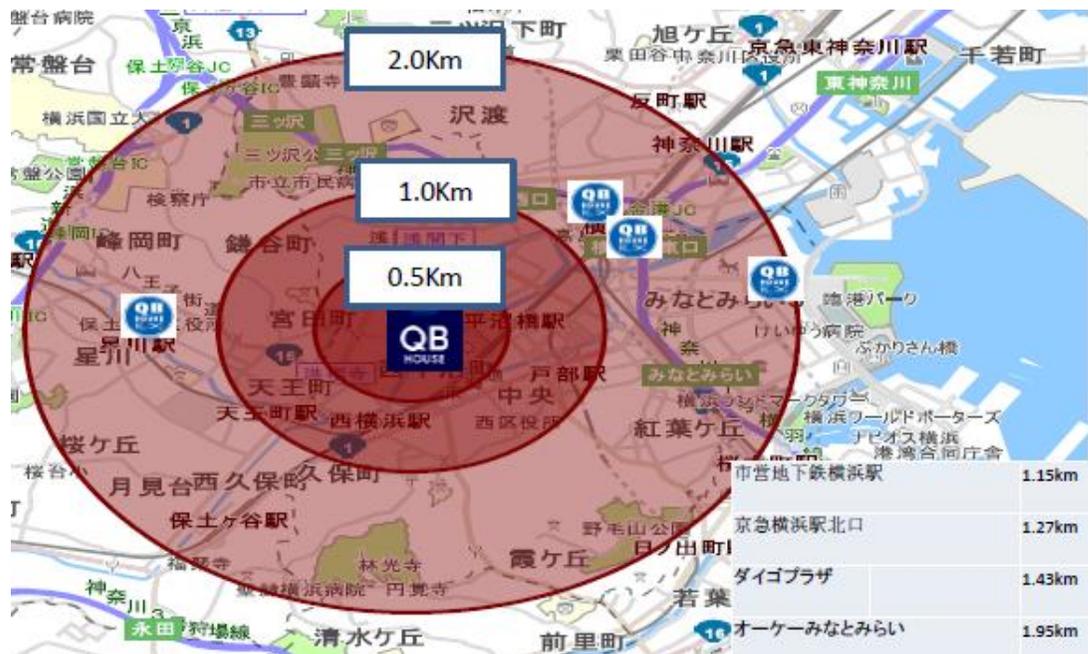
- キャッシュレス対応
- ソフトウェア変更で、
柔軟な価格設定も可能
- 新紙幣対応
全店導入は、新紙幣発行
の2024年4～9月に合わ
せて順次入替予定

重点施策③出店戦略

サミット横浜岡野店（相鉄線平沼橋駅より徒歩10分）



- コロナ前は、店前通行量の多い「駅」・「郊外の大型ショッピングセンター」への出店が中心



- 沿線ドミナントを活かしながら、空白地帯の居住エリアのショッピングセンターの出店を強化

重点施策④国内QB HOUSEのシニア価格の終了

(シニア価格の変遷)

- 2014年4月：通常価格税込1,000円→税込1,080円へ価格改定した際に、土日祝と平日の来店客数の平準化を主目的として、**シニア価格税込1,000円（65歳以上かつ平日利用のみ）を初導入**



- 2019年2月：通常価格税込1,080円→税込1,200円へ価格改定した際に、**シニア価格税込1,000円→税込1,100円へ価格改定**



- **2022年3月末：シニア価格の終了（税込1,100円→税込1,200円）**
- 2022年4月　：「ツキイチ」キャンペーンの開始（移行措置として期間限定）

※シニア比率15.3%（2015.6期）→17.8%（2021.6期）

重点施策⑤ 「ツキイチ」 キャンペーン（65歳以上の方限定）

「ツキイチ」キャンペーンのチケット



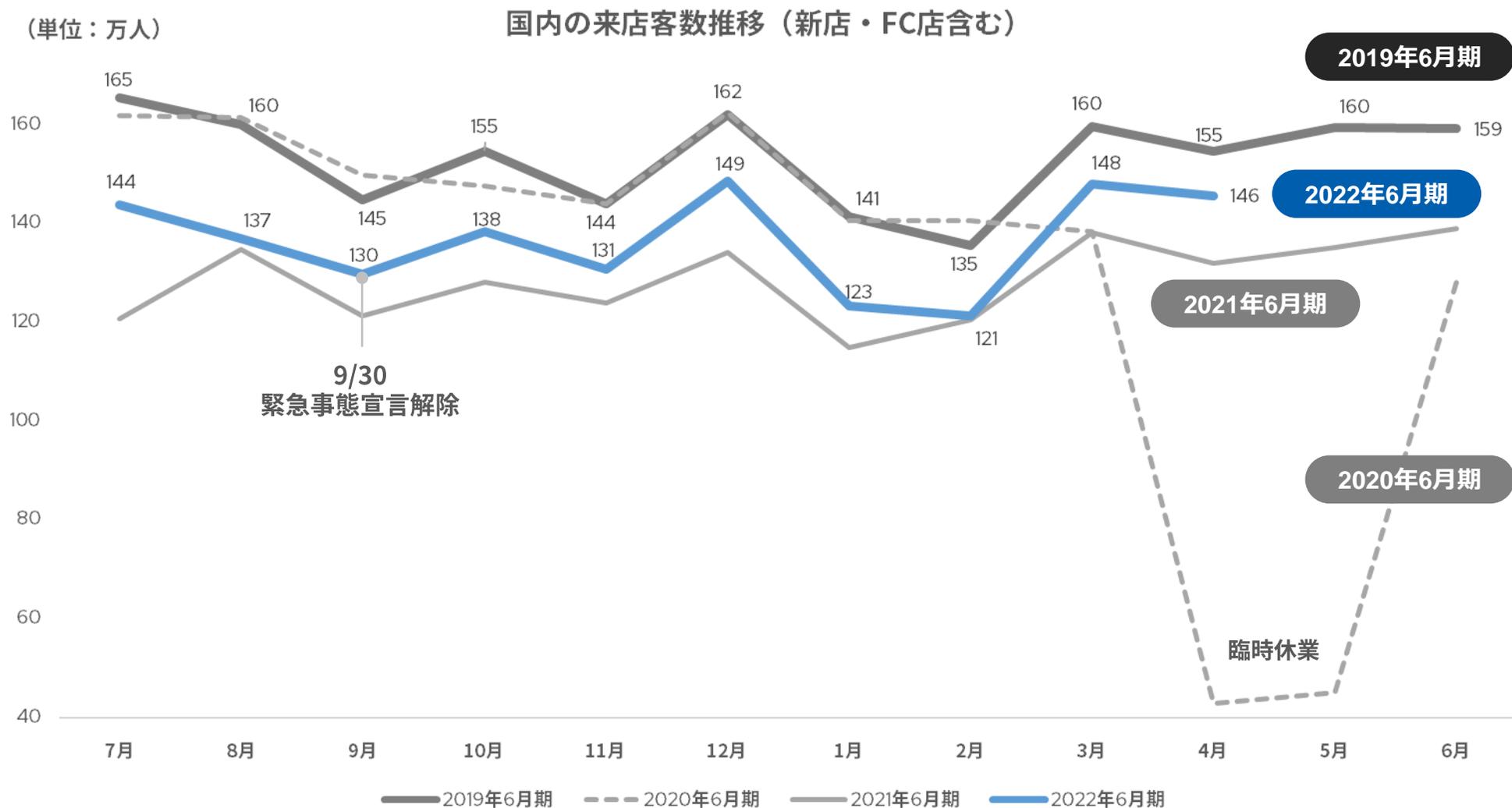
2022年4月～6月末まで
65歳以上の方は
1ヶ月以内の再来店で
100円割引



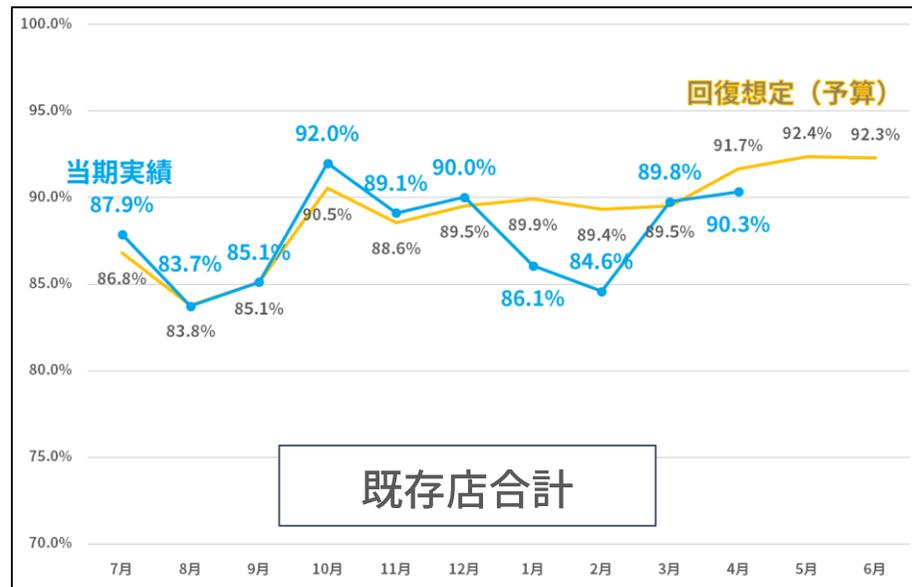
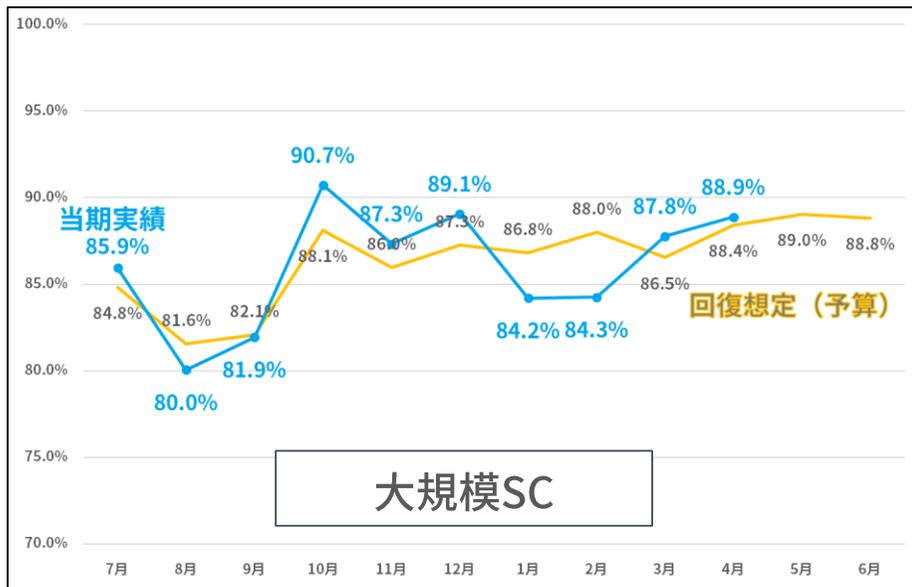
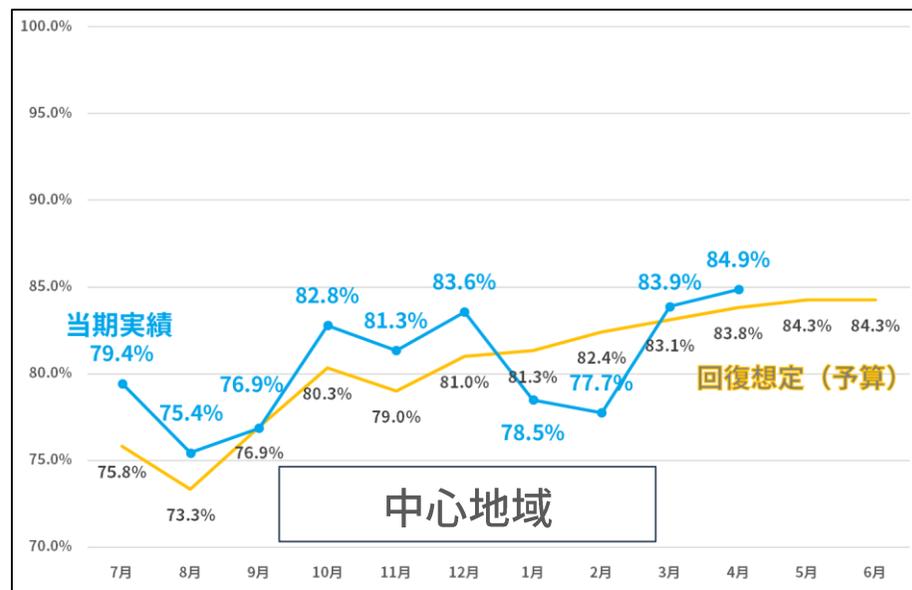
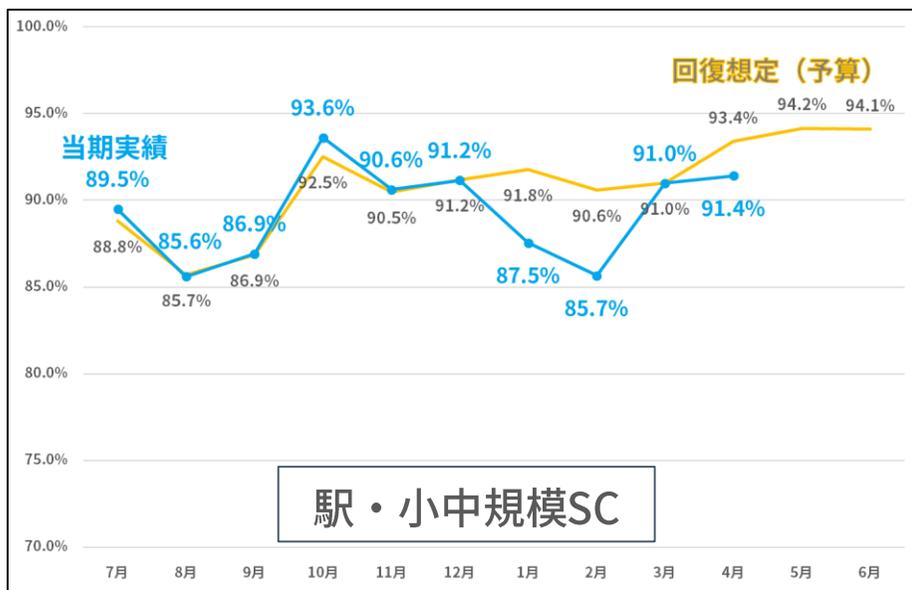
➤ シニア価格終了の移行措置

Appendix

【国内】来店客数の年別比較



【国内】来店客数（立地別）の回復想定と実績（既存店）



アプリ（FaSS 12店舗とQB PREMIUM 3店舗へ導入済み）

FaSSの予約利用率は47%へ上昇 （最も利用率の高い店舗では61%）

アプリの導入により



- ▶ 時間優先予約が可能
利便性向上、チャンスロス軽減
- ▶ お客様満足度の向上
電子カットカルテを利用し、
お客様のオーダーの煩わしさを
軽減
- ▶ 店舗運営効率の向上
キャッシュレスとカウンセリン
グ時間の短縮

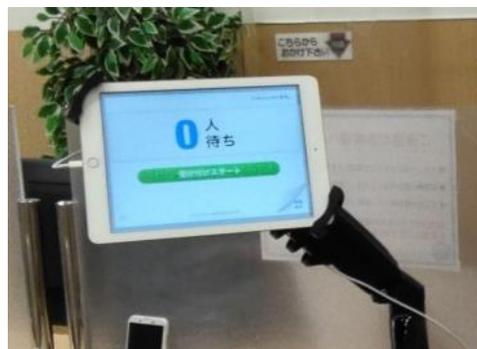
新順番案内システム（国内QB HOUSE）

スマホ等から順番予約が可能な新順番案内システムを試験中（イトーヨーカドー木場店）

順番案内システム V2.0(オンライン予約版)



スマホの画面



本社テスト店	
現在の順番待ち状況	待ち数: 23
さいとう 様	17 やまぐち 様
わたべ 様	18 いのうえ 様
いしかわ 様	19 きむら 様
やまもと 様	20 はやし 様
なかむら 様	21 しみず 様

店内のモニター

➤ 新順番案内システムの展開時期を検討中

➤ 新券売機に導入予定



➤ 店内で待ちたくないというニーズ

オンライン順番予約により店舗内滞在時間を極小化

➤ 待ち時間の有効活用

参考：価格改定（単価）の過去実績

価格改定（税込）の過去実績	
国内	(QB HOUSE) ・ 2014年4月：1,000円→1,080円（65歳以上・平日1,000円） ・ 2019年2月：1,080円→1,200円（65歳以上・平日1,100円） (FaSS、QB PREMIUM) ・ 2014年4月：FaSS 2,000円→2,160円 ・ 2019年10月：FaSS 2,160円→2,200円（消費税増税） ・ 2020年3月：QB PREMIUM 1,650円
シンガポール	・ 2012年12月：10ドル（約940円）→12ドル（約1,128円） ・ QB HOUSE Premium：15ドル（約1,410円） ・ QB HOUSE Kids 12歳以下：22ドル（約2,068円）
香港	・ 2014年7月：50ドル（約820円）→60ドル（約984円） ・ 2019年7月：60ドル（約984円）→70ドル（約1,148円）
台湾	・ 300元（約1,320円）
ニューヨーク	・ 2020年6月：20ドル（約2,572円）→23ドル（約2,958円） ・ 2020年11月：23ドル（約2,958円）→25ドル（約3,215円）

※2022年4月20日時点の為替レートで計算

グループ連結業績概要

連結損益計算書

単位：百万円	2021/6期3Q累計		2022/6期3Q累計			
	実績	売上比	実績	売上比	増減額	前期比
売上収益	13,951	100.0%	14,992	100.0%	1,041	107.5%
売上原価	△12,321		△12,225		96	99.2%
売上総利益	1,629	11.7%	2,766	18.5%	1,137	169.8%
その他の営業収益	703	※助成金674	65	※助成金30	△637	
販売費及び一般管理費	△1,953		△1,879		74	96.2%
その他の営業費用	△97	※閉店の店舗減損92	△51	※閉店の店舗減損43	45	
営業利益	281	2.0%	901	6.0%	620	320.4%
金融収益	9		10		0	107.8%
金融費用	△144		△123		21	85.2%
税引前利益	146	1.0%	788	5.3%	642	539.0%
法人所得税費用	14		△268		△283	-
当期利益	160	1.2%	519	3.5%	358	322.9%

グループ連結業績概要

連結財政状態計算書

単位：百万円	2021/6期 4Q末	2022/6期 3Q末	増減額
流動資産合計	5,641	5,181	△ 459
現金及び現金同等物	4,601	4,020	△ 581
営業債権及びその他の債権	781	860	78
棚卸資産	104	95	△ 9
その他	152	205	52
非流動資産合計	24,992	24,961	△ 31
有形固定資産	1,502	1,410	△ 92
使用権資産	5,313	5,268	△ 45
のれん	15,430	15,430	-
その他の金融資産	1,854	1,926	72
繰延税金資産	654	676	22
その他	238	249	10
資産合計	30,634	30,143	△ 490
負債合計	20,477	19,281	△ 1,196
営業債務及びその他の債務	202	281	78
有利子負債	12,843	11,339	△ 1,503
リース負債	5,366	5,294	△ 71
その他	2,065	2,365	299
資本合計	10,156	10,862	705
負債及び資本合計	30,634	30,143	△ 490

当座貸越10億円の返済+利益増
平常時より手元資金を厚めに保有
(平常時の手元資金は20億円程度)

当座貸越10億円の返済
借入金約定返済525百万円

グループ連結業績概要

連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円	2021/6期3Q累計	2022/6期3Q累計	増減額	
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,884	3,122	237	
税引前利益	146	788	642	
減価償却費及び償却費	2,462	2,393	△ 68	
営業債権及びその他の債権の増減額 (△は増加)	△ 15	△ 51	△ 36	
利息の支払額	△ 115	△ 93	21	
助成金の受取額	619	30	△ 589	(今期の助成金) 日本26、シンガポール4
法人所得税の還付額	271	29	△ 241	前期は中間納付額の還付額
法人所得税の支払額	△ 83	△ 74	9	
その他	△ 401	98	500	助成金収入の調整の差異 (調整はキャッシュ影響なし)
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 327	△ 373	△ 46	
有形固定資産の取得による支出	△ 303	△ 275	28	
無形資産の取得による支出	△ 10	△ 27	△ 16	
その他	△ 13	△ 71	△ 57	
フリー・キャッシュ・フロー	2,557	2,748	191	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,464	△ 3,443	20	
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△ 1,000	△ 1,000	-	前期：コミットメントライン 10億円の返済 今期：当座貸越10億円の返済
長期借入金の返済による支出	△ 525	△ 525	-	
配当金の支払額	△ 0	△ 0	△ 0	
リース負債の返済による支出	△ 2,017	△ 2,011	5	
その他	78	93	15	
現金及び現金同等物に係る換算差額	62	113	51	
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△ 844	△ 581	263	
現金及び現金同等物の当期末残高	4,272	4,020	△ 252	

参考：今期の出店計画

2022年6月期の新店・閉店の計画

単位：店舗	業態	2021/6期末	新店	閉店	増減	2022/6期末
日本	QB HOUSE QB PREMIUM	566	30	△6	24	590
	FaSS	13	2	0	2	15
国内小計		579	32	△6	26	605
シンガポール	QB HOUSE QB HOUSE Premium QB HOUSE Kids	34	0	0	0	34
香港	QB HOUSE	66	5	0	5	71
台湾	QB HOUSE	31	5	△1	4	35
アメリカ	QB HOUSE	4	1	0	1	5
海外小計		135	11	△1	10	145
連結グループ合計		714	43	△7	36	750

(※) 新店数・閉店数は移転に伴う出店・閉店を含む

本プレゼンテーション資料は、当社及びその子会社の関連情報の開示のみを目的として作成したものであり、売買の勧誘を構成するものではありません。

本プレゼンテーション資料に記載されている将来予想に関する記述は、当社が現在入手可能な情報を勘案した上での、当社の現時点における仮定及び判断に基づくものであり、既知及び未知のリスク、不確実性その他の要因を含んでいます。当該リスク、不確実性その他の要因により、当社の実際の業績又は財務状態が、将来予想に関する記述により表示又は示唆されている将来の業績又は財務状態から大きく乖離する可能性があります。



QBHOUSE
GLOBAL



QBハウスの
訪問理美容サービス

